

令和5年度(第13回)紀の川市防災総合訓練アンケート（まとめ）

種目	内容	対応・解決策	保留・課題案件	R6実践可能判別
訓練内容	若出市の防災総合訓練はスマホへ緊急地震速報の訓練用通知がきましたが、今回の訓練では通知が無かった。実災害では作動するのか。		実災害では作動しますが、次回訓練では検討いたします。	○
訓練内容	実施要領の避難予想地区があまり把握しておらず作成されていた。	今回の訓練記録を参考に来年度の実施要領を作成していきます。		○
訓練内容	毎年、役員が交代するので震度感知式鍵ボックスの使用法の習得や風水害の場合も想定した訓練も視野に入れて、訓練を継続してほしい。	訓練内容については紀の川市防災総合訓練実行委員会と決定するため、変更となる可能性がありますが、防災総合訓練は毎年実施されます。		○
訓練内容	関西電力に協力をお願いし、停電対策方法についての話を聞きたい。	各自治区、自主防災組織等を通じて危機管理消防課までご相談ください。		○
避難施設	高齢者等の搬送用に車椅子を設置すべき	リアカーは全防災倉庫に配置しており、ノーバンクタイヤのため維持管理上適切でありますので、緊急搬送用として代用していただきたいです。	使用方法については、今後啓発及び周知していきます。	△
避難施設	震度感知式ボックス内に誰が見ても一目でわかるような避難所受付に至るまでの手順があった方がよい。(例：避難所内レイアウト)	震度感知式鍵ボックス内に避難所内のレイアウトを記載した「避難所情報」を格納しております。また、避難所運営ボックス内に避難所の開設手順を記載した「避難者を受け入れるまで、あなたや、あなたの周りの方と最低限以下のことを行って下さい。」を格納しておりますので、避難所開設の際はそれらを使用していただきたいです。		○
避難施設	災害発生時、携帯電話は繋がらない可能性があるので大規模避難所には公衆電話を設置してほしい。	一部の避難所には災害用公衆用電話が設置されておりますが、大規模災害時、電話がつかない場合も想定されるため、家族等で避難カード等を使用し自分の避難する避難所について事前に取り決め、共有しておいてください。		×
避難施設	避難施設の非常用電源はいかがか。	防災倉庫に配置している発電機を使用してください。		○
避難施設	避難場所の破損確認時のチェックポイントはどこか。体育館の構造のどの部分をチェックするのか。避難所開設となると昼ならまだしも夜になって建物の亀裂、床、天井に水が出るかの確認ができるかどうか不安。避難所に3人程度の職員配置を要望する。	建物チェックシートのとおり確認してください。 市職員は災害時、派遣されますが到着が遅れたり人数に変動があるため、率先避難者により避難所を開設し運営できるよう協力してほしい。		○
避難所運営	ペットと同行避難についての対応方法を教えてほしい。	ペットは原則、避難所屋内には持込不可となっている。ゲージ等を飼い主が用意し他の避難者に迷惑にならないよう屋外で飼育管理してもらうのは可能といたします。		○
防災倉庫	備蓄食糧数が少ないように見受けられた。備蓄食料や水、毛布は今後増やしていく計画はあるのか。震度7の想定であればもっと建物の倒壊やライフラインの断絶など予想され、避難想定者数や備蓄物の見直しが必要に感じた。	各指定避難所ごとの防災倉庫にある備蓄量については、比較的最低限となる量となり、市内主要備蓄倉庫内にも予備があるため不足した場合は、順次、供給いたします。		△
防災倉庫	実災害時、仮設トイレを配置してほしい。	指定避難所のトイレが使用不能となった場合、市内主要備蓄倉庫に保管している仮設トイレを供給いたします。		○
防災倉庫	防災倉庫の備蓄一覧表が古い情報なのか、相違が見受けられるため、変更差し替えを願う。	次回訓練までに点検及び対応いたします。		○
防災倉庫	発電機内の燃料はいつでも使用できるように常時入れておいた方がよい。定期的な作動確認と、年1回の燃料交換は必要なのは承知しているが。	発電機に燃料を注入したまま放置すると不具合が発生し、いざという時、使用できなくなる可能性があるため今までのとおり、注入しないことといたします。		○
防災倉庫	持ち出しPCの電波状況が悪く、避難所内では通信出来なかった。 防災倉庫の出入口の背面が高さが有り、夜間などでは転落の危険がある。出入口の向きを変えるか、転落防止柵の設置検討願う。 発電機が照明用であるが、避難者のスマートフォンの充電できるような改善が必要。 地元から良い訓練なので参加人数をもっと増やしてほしいといわれた。	発電機は電子機器の充電用としても活用できます。また、USB端子のものについては各自持ち出しによるもので対応をお願いいたします。		○
防災倉庫	中越地震にあわれた方が参加者におり、その時も電話が通じず行政にも連絡が出来なかったのので、防災倉庫のクリアボックスにある黄色の電話の使い方がわかるようにしておいてほしい。(マニュアルの整備)	人数については今後、増やしていきたいと考えております。また、災害用公衆電話機については使用方法等がわかるよう資料などを作成し配置していきます。		○
防災倉庫	体育館内のスリッパがなく冬季には厳しい簡易のスリッパを防災倉庫内備品として備えるべき。	令和5年度中に配備いたします。		○
防災倉庫	避難所と防災倉庫の位置が離れており不便であった。		設置時に教育委員会との協議の上、設置しているため、既設の倉庫の移動は困難であります。	×
防災体制	実災害時、通信網が遮断される場合、市への避難所状況報告方法について教えてほしい。	色々な手段（災害協定での無線配備を含む）が予想されますが、消防団の協力のもと無線での情報伝達手段等も考えております。		○
防災体制	自主防災組織や消防団、民生委員へ災害時要援護者名簿を配布しているが、一人での対応が難しいとのこと。また、避難は誰が手助けするのか。	自助の観点から、要援護者自身が自ら助けを求められることができるよう近隣住民や地域の申核となる団体組織に協力要請しておくことが大切です。 また、共助の観点から、平時から管轄内の要援護者に対して、対応できるよう、自主防災組織や消防団、民生委員が訓練等を実施し役割を明確にし協力体制を構築しておく必要があります。		○
参加者	地域単位(班単位)で同様の訓練を実施してほしい。	各地元、自主防災組織等を通じて危機管理消防課までご相談ください。		○
その他	各地区の自主防災組織員も年々高齢化し人数も減少している。それにもない機動力も落ちている。中・高・大学生にも自主防災をPRし地域の防災メンバーとして協力してもらいたい。	各自主防災組織が中・高・大学生に対して活動の参加を促進できるよう努めていただきたい。また、市としても啓発活動を行っていきます。		○
その他	区民から今回の避難訓練について問い合わせが多かった。避難所へ直接行くのか、地区のブロック長が指定する場所へ集まるのかなど。回覧案内を簡潔にわかりやすくしてほしい。	次回訓練時は改善に努めます。		○